

公的医療機関等 2025 プラン（2023 年度版）参考様式

○基本情報（令和 6 年 1 1 月 1 日現在）

- ・ 医療機関名
戸田中央総合病院

- ・ 開設主体
医療法人社団 東光会

- ・ 所在地
埼玉県戸田市本町 1 - 1 9 - 3

- ・ 許可病床数
 - （病床種別） 一般病床 : 517 床
 - （病床機能別） 高度急性期 : 25 床
急性期 : 490 床

- ・ 稼働病床数
 - （病床種別） 一般病床 : 484 床
 - （病床機能別） 高度急性期 : 25 床
急性期 : 459 床
未稼働 : 33 床

- ・ 診療科目
内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、精神科、外科、整形外科
形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科
泌尿器科、放射線科、麻酔科、アレルギー科、リウマチ科、救急科、移植外科
乳腺外科、消化器外科、腎臓内科、病理診断科、脳神経内科、リハビリテーション科
緩和ケア内科、婦人科 【計 3 0 診療科】

- ・ 職員数
 - （医師） 250 名（内非常勤 : 124 名）
 - （看護職員） 568 名（内非常勤 : 67 名）
 - （専門職） 279 名（内非常勤 : 6 名）
 - （事務職員） 200 名（内非常勤 : 23 名）

1. 現状と課題

①当該病院（自施設）の現状

- ・地域内での役割・機能

地域がん診連携拠点病院・災害拠点病院・地域医療支援病院等の役割を担っており、南部医療圏の高度急性期医療の提供を行っている。

一日の救急車を20件前後（年間7,000件ペース）受け入れており、南部地域の救急のかなめである。

②当該病院（自施設）の課題

当院は脳神経外科病棟と脳神経内科病棟を一体化させ脳卒中センターとして運用しており、その中でSCU9床を稼働させており稼働率100%となっている。いずれの病棟も在院日数の長期化が問題となっている。さらに整形外科病棟も在院日数の長期化が課題であり、いずれにおいてもその一因が回復期病院への転院に時間がかかっているのが現状である。心疾患患者も増加傾向にあり、特に高齢者は心リハの必要性が高まっており、急性期病院での心リハ実施の必要性を感じている。また、救急専用病床として稼働している5床においては稼働率7%となっており、必要性の再検討を行ってきた。

上記課題に対応するため、休床中の33床及び救急専用病床の5床について、病床転換を含め検討し、現在休床中（23床）の病棟において改修工事を実施し、35床（回復期）の回りハ病棟として転換稼働し、残りの3床については既存急性期病棟へ1床（急性期）移動、HCU2床（高度急性期）増床稼働させることとした。病床転換のための改修工事には病床機能転換促進事業補助金を活用し整備したい。

※前回調整会議にて計画した既存急性期病棟30床の回りハ病棟転換については、稼働率の低い救急専用病床の再編、病棟改修工事のため計画変更

2. 医療機能ごとの病床数

時点	病床数	医療機能別					区分別	
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	一般	療養
2024年 11月1日 時点	517	25	459	0	0	33	517	0
2025年 7月1日 時点	517	27	437	35	18	0	517	0

※令和6年度病床機能報告の数値を入力

3. 今後の方針

- ①地域医療構想を踏まえた当該病院（自施設）の地域において今後担うべき機能・役割
地域完結のために救急医療・高度急性期治療を提供。感染症にも対応。
- ②①を踏まえた今後の方針
（病床機能や診療科の見直し、他病院との連携の方針、その他見直しの予定等）
HCU（2床）の増設。
- ③その他の数値目標について
救急搬送件数 20 件/日以上、新入院患者数 33 人/日以上、病床回転数 2.3 回以上、
平均在院日数 13 日以内

4. 新興感染症への取組

現在急性期病棟として稼働している（30床）を新興感染症発生時、専用病棟として運用することを検討している。

5. その他

救急患者の受入強化のため、現在 ICU 満床を理由に断りになっているケースがあり HCU の増床により患者の受け皿を広げ、より多くの救急患者の受入れ体制構築を図る。